

## 誤えん死亡事故の対応に納得しない母親

— 誤えん発生から16分後に救急車要請 —

### ■ タッピング+吸引+救急搬送で過失はない

知的障害者施設の利用者が誤えんで死亡しました。誤えんに気付いた支援員は、タッピングを行いました但し回復しないため、看護師に吸引を要請しました。看護師は迅速に吸引を施行しましたが、回復しないため、救急車を要請して病院に搬送しましたが亡くなってしまいました。救急車を要請したのは誤えん発生から16分後でした。看護師をしている利用者の姉は、「誤えん発生時の救急車の要請が遅れたために息子は死んだ」と施設の過失を主張します。施設長は「タッピングと吸引という救命処置を迅速に行っており、事故発生時の対応には問題はないので過失はない」と反論しました。母親は「誤えん発生から16分では手遅れになるに決まっている」と救急車要請の時間を問題にしています。

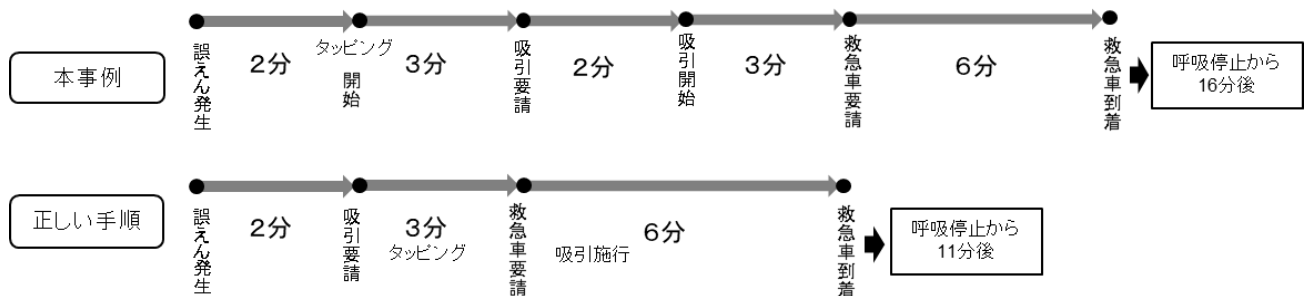
## 誤えん発生から何分後に救急車を要請すべきか

### ■ 横浜地方裁判所判例の解釈

(過去の判例)平成12年2月23日横浜地方裁判所川崎支部の誤えん事故訴訟の判決は次のような内容でした。「利用者は飲み込みが悪かったのであるから、食事後の異変を誤えんと気付き対処すべきところ、15分後に救急車を呼ぶまで吸引などの救命措置をしなかった点に適切な処置を怠った過失が認められる」と。この判決は「救命処置を行わなかったことが過失である」と解釈する人もいますが、救急車の要請が遅れたことも大きな過失です。人は呼吸が停止すると平均15分程度で絶命するといわれています。救急車は到着に最低でも6分(都市部)を要しますから、15分で要請すれば救急車の到着は呼吸停止から21分経過しており、かなりの確率で絶命しています。つまり、救急車の要請時間は誤えん発生時の対応の最も大きなポイントなのです。

### ■ 誤えん発生(呼吸停止)後、何分で救急車を要請すべきか?

本事例の誤えん事故の対応から、救急車を要請した時間を検証してみましょう。誤えん発生からタッピング施行まで2分かかり、タッピングを3分間施行したとします。次に吸引の要請から吸引開始までに2分、吸引の施行に3分かかり、119番通報したとすれば、救急車の要請までに10分を要します。救急車が6分後に到着すれば、呼吸停止から救急車の到着まで16分経過していますから絶命していてもおかしくありません。救命を最優先すれば「誤えんの発生に気付いたら看護師に吸引の要請を行い、看護師が吸引を開始するまでタッピングやハイムリックを施行する。看護師は吸引を開始する時に救急車の要請を行い救急車到着まで吸引を施行する」という手順になります。



#### 発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社  
 マーケット開発部 市場開発室  
 担当 堀江 TEL 03-5789-6456

#### 監修

株式会社安全な介護 山田 滋

#### 担当課・支社 代理店

株式会社福祉施設共済会  
 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOSビル  
 電話03-5466-0881 FAX03-5466-0882